

【#4】雷のオハナシ

Text by 小助川駒介

Komasuke KOSUKEGAWA



もちろん私ども雷一族は、雷神とも呼ばれるように  
神々の末席に座すものでありますゆえ、

人間から見られるようなことはまずありませぬ。

時間も空間も超えた、

人間の理解の及ばぬ存在なのでございます。

雷神といえば、俵屋宗達や尾形光琳による

風神雷神図を思い起こす方々も

多いのではございますまいか。

私、一言だけ申し上げておきたいのは、

私ども雷一族、あそこで描かれるような

醜い豚の鼻などしておらぬのでございます。

人間の愚かな悪あがきなのでしよう。

理解を超えたものに対する恐れが、

あの屏風図に込められておるのです。

なにやら愚痴のようになってまいりました。

ここらで話を変えさせていただきますでしょう。

巷間語り継がれているまことしやかな言い伝え、

雷は人間の臍を取る、と

いう伝説についてでございます。

正直に言いますならば、

すべての雷が臍を好むわけではございません。

臍が好きな雷も、

臍など見向きもしない雷もいるのでございます。

雷にも多様性はあると言えましょう。

私は、といえば人間の臍は大の好物。

あんなに美味しいものは他にないのではないか  
と思うほどなのでございます。

取られた臍、というのは例えるのならば、  
そう、まさに胡桃の殻を半分に割った形、

食感としては、人間の食べ物でいう、  
グミのようなものといいたましようか。

へそのゴマも一種の香辛料として  
噛めば噛むほど味わいが深くなるのでございます。

そもそも臍とは、胎児と母体が繋がっていた、  
その名残でございました、

何の役にも立たないと思われているようです。

しかし実は、臍を取られた人間は、  
悉く気が触れてしまうのでございます。

それほどまでに、臍というのは、

人間にとって大事なものなのでございます。

我々、かりそめにも神の名がついておりますゆえ、

あまり人間の害になってはならないのです。

したがって好きに取って良いものではございません。

どのような臍が美味いかと言いますと、

やはり年寄りの臍はまあ、あまり美味しいとは言えません  
ま  
い。

水分と油分がこう、足りないのでございますな。

年頃でいうなら、二十歳前後、

男女ならどういいうわけか女に軍配が上がります。

もう一つ加えると、よく日を浴びた臍というのが

一層の旨みがあるのでございます。

科学的な理由まではわかりませぬが、

干し柿や鰯の干物など、

天日干しをすると旨み成分が増してくるのと

同じ道理ではなのでございましょう。

さて、好物の臍の話をしているうちに、

どうにも垂涎を禁じ得なくなっただけです。

どれ、久しぶりに地上へと、

極上の臍でも狩りにまいますかな。

日焼き乙女の臍を狩らんかな

伊藤白潮